

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

当市が既に導入している技術は以下の通りです。

【既に導入している技術】

①札幌市ICT活用プラットフォーム

当市が進める各種ICT活用まちづくりのベースとなるデータプラットフォーム「DATA-SMART CITY SAPPORO」を先述の通り総務省の事業で構築し、既に、まちづくりへの活用を始めています。

②人流センサーやビーコンなどの各種ICT機器類

札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)には、人数と方向がわかるセンサーを設置し、主に防災対策の視点で活用しています。また、チ・カ・ホを含む都心部の地下空間に広くビーコン(約300個)を設置し、スマートフォンを経由してユーザーの移動経路を収集し、防災のほかにもエリアマネジメントの観点から活用しております。

③サイネージやスマートフォンを活用した来街者移動支援サービス

チ・カ・ホでは、サイネージによる地域情報の配信、スマートフォンによるトイレや駐車場など各施設へのアクセス支援サービスを展開しています。

今後導入したいと考えている技術は下記(4)に記載します。

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

(2)で示した当面の重点課題に対する解決の方向性を以下に示します。

①スマートウエルネス事業のサービス機能の向上

・対象エリアの拡大

現在、国土交通省の事業として進めているスマートウエルネスシティ事業では、主に地下空間での歩行に対するポイント制度の付与を実施していますが、今後、地域住民へのより幅広い効果を促すには、都心部の地下空間だけでなく、都心地上部、さらには郊外部への同制度の普及拡大が重要だと考えています。

・サービス機能の拡充

現在は、既存の複数アプリの連携でサービスを実施していますが、ユーザー利便性の視点から、アプリの改良などを進めることが重要です。さらには、都市側センサの整備拡大と精度向上といった課題にも対応する必要があります。

②プラットフォーム「DATA-SMART CITY SAPPORO」の有効活用

当市が進める各種ICTサービスで得られるビッグデータ(例:移動データ、観光データ、気象データ等)を活用し、エビデンスに基づく政策立案(EBPM)や行政・市民間の合意形成に資することを目指します。さらには、まちづくりへの活用ケースを広げるとともに、地元事業者や市民が積極的に「DATA-SMART CITY SAPPORO」のデータを、まちづくりや産業の振興に活用して頂ける環境と機運醸成を高めることが重要だと考えています。このなかで、現在当市のスマートウエルネスシティ事業で実施しているスマート・プランニングは有益な取り組みの一つだと考えています。今後、更なるスマート・プランニングの推進に向けては、多種多量のデータを官民で効率的に活用できる環境が求められることから、プラットフォーム「DATA-SMART CITY SAPPORO」の機能として、データをMachine to Machine で活用できるような、API等によるデータの自動送受信機能を実装する必要があります。

今後は、以上の取り組みを優先的に実施していく予定です。

(5) その他

①現在進行中のプロジェクト

・国土交通省:スマートシティ実証調査(スマートウエルネスシティ事業)

・30～50代を対象とし、ポイント制度を含めた健康行動促進事業を実施予定

・都心部におけるICTを活用したまちづくりの推進(内閣府地方創生推進交付金事業「スマート地下空間形成によるビジネス創出事業」;H28～30)

②当面の取り組み予定

・スマートウエルネスシティ事業を、都心部地下空間だけでなく、地表部、郊外部に拡大普及する事業

・上記のサービスの向上

・スマート・プランニング等データ活用ケースの拡充

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
札幌市まちづくり政策局 政策企画部 ICT戦略担当	戸島 宏二	011-211-2136	koji.toshima@city.sapporo.jp